

Palmに話すトナカイがやってきた（その1）

概要

古い Macintoshユーザにはなつかしい [Talking Moose](#)（話すトナカイ）が Palmデバイスにやってきました。[Flite](#)という [CMU](#)で開発された Speech Synthesisエンジンを利用して TTS機能を Palmデバイス上に実現！これを利用して真っ先に作られたアプリケーションがこの Mooseです。Mooseをインストールすると、Palmデバイスを住処にして生活を始めます。設定によっては時々、Mooseは勝手に英語でしゃべりかけてきます。日本語は勉強中ですのでお待ちください。Mooseは贅沢なので広大な空き領域を備えた Sound Stream機能を実装した Palm OS 5.X (Garnet)のデバイス以外は住み着きません。

入手方法

[ここ](#)からダウンロードしてください。

利用方法

Mooseは広い場所を好みます。6MB程度の空き領域を確保しておかないと住み着きません。Dynamic Heapも 2MB以上必要とします。MSMountを利用した偽のメモリ空間を好みません。ダウンロードした ZIPファイルに含まれる 5つの PRCファイル - Moose.prc, flite.prc, cmu_us_kall16.prc, cmulex.prc, usenglish.prcを全てデバイスに HotSyncを利用してインストールします。一つでもインストールを忘れるとダダをこねて Mooseは動作しません。インストールすると、Launcher画面に Mooseというハンサムなトナカイの顔が現れますのでアイコンをタップして起動させます。

Mooseには3通りの楽しみ方があります。一つ目は Mooseアプリケーションのテキストフィールドに入力したテキストを「Talk」ボタンでしゃべらせます。2つ目は Moose以外のアプリケーションにある文字列をしゃべらせる事。Preferencesから「Enable Command Bar Menu」をチェックすると Moose以外のアプリケーションのテキストフィールドの文字列を選択した状態（もしくはクリップボードに文字列をコピーしている状態）でコマンドバーを表示させるとハンサムなトナカイの顔の一部がコマンドバーに現れます。3つ目は Preferencesの「Background Speech」をチェックするといつでもどこでも Mooseがしゃべるようになります。「Idle Delay」を 0に設定するとしゃべり続けてうるさいので注意してください。5に設定すると 5分毎にしゃべります。Palmデバイスの電源が OFFになっている状態では Mooseはおとなしくしておくように躡られています。

Mooseが気持ちよくしゃべろうとしている最中は次のリクエストをしても彼はそのリクエストを無視します。

削除方法

Mooseを Palmデバイスから追い出すのは大変です。まず Mooseだけを削除します。そのあとリセット穴を突っついてソフトリセットをかけます。それから残りの flite, cmulex, cmu_us_kal16, usenglishを削除してください。

履歴

- 2004-11-18 Version 1.1.2: 動作中の電源オフの延期
- 2004-11-10 Version 1.1.1: 電源オン検出手法の変更
- 2004-11-02 Version 1.1: 電源オンで時間をしゃべる機能追加
- 2004-11-01 Version 1.0: 最初の公開

